

## 「かわとはきもの」150号の発行にあたって

皮革技術センター所長 川原井 通 義

「かわとはきもの」は、本号をもって第150号を迎えました。

ひとくちに150号といいましても、現在の皮革技術センター台東支所が、その前身である東京都産業労働会館として開設した1972年（昭和47年）に創刊されて以来、37年間の歴史を歩んできたこととなります。

組織改正をした平成10年以降も、東京都立皮革技術センター台東支所として、東京都における重要な地場産業である皮革・靴はきもの関連産業の振興に資するための情報提供を使命として発行し、充実に努めてきたところでございます。

本誌がここまで継続できましたのも、この使命をご理解いただき、支えていただきました執筆者及びお読みいただく皆様はじめ、幅広い関係者の方々の暖かいご支援・ご協力の賜であり、改めて感謝を申し上げる次第でございます。

近年、皮革・はきもの関連産業を取り巻く諸状況は、大きく変わっており大変厳しいものがあります。そのような中であって、皮革・はきもの関連産業の振興のための情報発信として本誌の果たす役割は大変大きなものがあると考えております。

今後とも皆様のご期待に応えるべく、幅広い関係者の協力・連携のもとに充実した情報提供ができますよう心がけてまいりますので、更なるご愛読をお願い申し上げます。150号発行にあたっての挨拶といたします。

皮革技術センター台東支所長 小 川 芳 夫

「かわとはきもの」が第150号を発行することになりました。

第1号の発刊は昭和47年の11月、かわとはきもの—東京都産業労働会館ニュース—として単色B5版簡易印刷でスタートしました。以来37年、現在はカラー表紙A4版で発行しております。「かわとはきもの」は、公的機関としては唯一の靴・はきもの関連を中心とした、技術、ファッション、海外情報等を掲載した専門誌として、年4回、皮革・靴はきもの関連産業の振興に資する目的で発行してまいりました。

第150号の発行にあたり、改めて、本誌が靴・はきもの関連を中心とした関係業界及び多くの関係者の方々のご協力・ご支援を得て継続されてきたことを痛感いたしております。

とりわけ、これまでご執筆・ご協力をいただいた多くの方々と長くご愛読いただいている読者の皆様方には本当に感謝申し上げます。創刊以来、本誌の発行に関係する職員も何代にもわたっております。多くの方々の熱意と努力によって本誌が支えられ、発行を続けることができたことに改めて御礼を申し上げます。

当所といたしましても、本号の発行をひとつの節目として、これからもよりの確かつ充実した情報の提供に努めてまいります所存でございます。今後とも忌憚のないご意見・ご要望をお寄せいただきますようお願いを申し上げます。挨拶といたします。



## No150記念号で思うこと

皮革産業資料館 副館長 稲川 實

むかしから、創刊号といえはすぐ取り込み、蒐集したくなるという妙な習癖がある。ご多分にもれず『かわとはきもの』No 1開設特集号（昭和47年12月11日発行）も、37年間持ち込み、現在も手元にあるから、今となっては貴重なコレクションである。

『かわとはきもの』100号記念（1997年7月10日発行）の時も、お祝いの寄稿文を書かせていただいたが、ついこの間のような気がしてならない。

しかし現実には、その誌面でご一緒した日本はきもの研究会の菅野英二郎先生も、日本はきもの博物館の主任学芸員だった潮田鉄雄先生も、ともに鬼籍の人になられているから、やはり、それだけの歳月が流れたということであろう。

菅野先生は、戦時中戸山ヶ原にあった第六陸軍技術研究所（略称6研）の先輩後輩の間柄で、当時先生はガスの防護を課題に、カラーゲンの研究をしておられたという。そんな古いご縁の上に、1972年日本皮革産業連合会の欧州視察団（菅野英二郎団長）にも、ご一緒させていただいたから、ことさら追慕の念も深い。

現在『かわとはきもの』に「靴の歴史散歩」を連載しているが、これの書き出しが1986年（昭和61年）No56だから、今号のNo150をもって、ちょうど23年目を迎えたことになる。休まず続けて来られた健康に感謝すると同時に、貴重な紙面を提供して下さいました『かわとはきもの』に、心からの御礼を申し上げたい。

靴産業の埋もれた史料を掘り起し、後の世に伝える作業は、今後とも続けて行きたいので、もうしばらくのご愛読をお願いいたします。

最近「ものづくり」の魅力にひかれ、靴産業にも若い人が参入して来るようになった。受け継ぐ若い人が居るといことは、ありがたいことである。

ちょっと先のことだが、『かわとはきもの』200号の活力ある姿が見えてくるようでうれしい。



## 創刊150号によせて

日本はきもの研究会会長・医学博士 秋田大学名誉教授 田口 秀子

「かわとはきもの」創刊150号の発行おめでとうございます。

私が日本はきもの研究会でお世話になるきっかけは、ある学会で当時日本はきもの研究会の会長であった故菅野英二郎先生からお声をかけていただいたことで、以来20有余年になります。当時、橋場にあった事業所にお邪魔をして数々のご助言を頂いてから現在まで、多大なるお世話になってきました。初代会長の菅野先生がお亡くなりになる前の2000年7月に「日本はきもの研究会ニュース」第1号を発行してから、年に4回の発行を続け、現在38号を数えています。

今、はきものはひとの健康を左右する重要なアイテムになっています。特に、履き心地、快適性、フィット感など、ひとの感覚による問題解決の研究がさまざま行われています。

本会の会員はそう多くはありませんが、「日本はきもの研究会ニュース」では海外視察による靴事情の紹介や、靴と足の構造、快適な靴の製造、また、時代の流行に伴う足や靴の健康に関する問題、スポーツと靴などについて取りあげてきました。

特に2001年の6号から、本研究会の元会長である宇留野勝正先生の翻訳による、ドイツ月刊誌「靴と整形外科」を掲載、本年10月で64回を数えています。

その内容は、海外の学会の紹介、足や靴に関する研究のみならず、足や靴に纏わる糖尿病に関する問題など、様々な情報をお届けしています。

本誌「かわとはきもの」がその先端の情報誌であることは、日本はきもの研究会の見習うべき目標であります。

今後益々のご発展を心より願っています。